



尼義 正奈 AMAGI SEINA

■T159 B123 W62 H110

26歳。22歳の時に警官に、24歳で能力者性犯罪対策組織『テミス』に配属
住吉警部とバディを組み捜査にあたる
優秀で正義感が強くクールだが
中身は意外と普通の女子
住吉に好意あり

■住吉智宏

30歳。警部。正奈のバディ
真面目で勤勉
正奈とも相性が良く
惹かれている。

■万才仁人(まんざいじんと)

49歳。警視。警察署長
セクハラばかりしている上に
いい歳してオタク、実は能力者
自分の体液を相手に摂取
させて同じ趣味性癖にする
『癖共有』をもつ。

—この街では
怪人や能力を持つ
犯罪者が
はびこっている…
その中で性犯罪を
犯す能力者を専門で
取り締まっているのが
警察組織『テミス』…

対能力者スーツに
適正のある者たちで
組まれたチームだ
俺もチームの一員で
バディを組んでいるのが
後輩の……

「住吉(すみよし)先輩…遅いですよ
この犯罪者は確保しました」
彼女は『尼義(にぎ) 正奈(あまぎ せいな)』

「11時23分 現行犯逮捕
睡眠誘発能力で女性たちを
睡眠強姦…本当に許せまんね」
正義感が強く実力も折り紙付き
決して性犯罪者を
許さないという信念をもつ頼れる相棒で……

「どうしました?先輩?…いつも
以上にボーっとしてますが」
俺の想い人だ…

「はあ……スーツは汗臭くなるのが欠点ですね……キワどいし……」
「余り服装を緩くするなよ、署長に見られたら……」
「オタクのセクハラ署長ですか……それより先輩
私が先に容疑者を捕まえたなら……」

「あ……ああ、食事を奢る
約束だな、わかってるよ」
「できれば二人きりで……」

「おお、いいところに
尼義くん」
「あ……」

署長……セクハラで
有名なのだが
何故か女性職員達から
被害が報告されない……
それどころか……

「実は君にお願いしたことがあってね
新スーツのテストをと技術部から
通達があつたのだよ」

「……わかりました、お引き受けします」
「ハハハ、さすが我が『テミス』の
期待の星だな」
「なぜだか嫌な予感がする……」
「(任せてください、私がコイツの
性加害を明るみにしてみせますから)」
いつもの余裕の笑みを浮かべ
彼女は署長と共に去っていく……

「考え……すぎだよな……」

グッ

——だが彼女はその日から
署内で姿を見せなくなった
別施設でスーツのテスターを
しているとのことだったが
スマホでも連絡が取れなくなって……

一月が過ぎた頃……
署長から呼び出しがあった
『彼女のことと通達したことがある』との
ことだった……

不安が大きかったが
彼女と久々に会えるかもしれないという
期待と共に扉を開けると……

署 長 室

状況を飲み込めず
呆然としてしまった……
いつも毅然と
していた彼女が……

頭がおかしくなったような服装をして署長の隣に
立っていたからだ……

「せ、先輩っ!? なぜ……」

「ワシが呼んだのだよ

セイナたんがお前とのバディを解消して私の専用……

……でなく専属秘書になると伝えておこうと思つてな♥」

「正奈……たんっ!?!」

はぁ♡
はぁ♡

「あん♡

そう……です……

センパイ……

心配いりません……

署長は無罪……てした……ぶいっ☆」

ぐろお……

「なっ……何を言つて……今だつて
セクハラを……その格好も」
「これは新しいスーツです……
多少、露出は激しいですが♥」

「そうだよ?」

それにコレは痴漢対策の

トレーニングだからねえ……

それじゃあ報告はしたからね

よろしくね♡」

ま……
あ……

「ちょ……ちよつと」

そんな……あの正義感の強かった

正奈が……何があつたんだ……

「さっきの態度はなんだ!? セイナたん」
「はっ! 申し訳ありません!!」
オチンポリス正奈は

「ほっ♡」
「想い人だった先輩を前にして
『今の私』をさらけ出すことが
できませんでしたっ!!♡」

「まったく...それでは立派な
オチンポリスにはなれないよ?
まだトレーニングが必要かな」

「ナナちゃん」

「おっい」

「いっく」

「ふっ」

「アッ」

「んふっ♡♡
お詫びして...
署長のデカチン
取り締らせて
いただきます!」
「いっそ♪許可する♡」





「勝手にいきまくる変態ポリスには
まだ躰が必要だね」

「はいっ！本当はスーツでも何でもない
オチンポリスのコス着てしまう
ドスケベセイナのオマンコとおっぱいを
お嬢お願いしすっ！
んへ♡うへへ♡」

「しゅきしゅき署長♡
べんべんべん♡」

「しゅきしゅき
しゅきしゅき
しゅきしゅき」

「んふふ♡本当に可愛くなったね
セイナたん♡一ヶ月前痴漢したときは
あんなに嫌がっていたのに…」

ぐんぐん

「はい！あの時は署長が性犯罪能力者で
私を囚捜査に出して
痴漢してくるなんて
思いもありません
でしたのでっ…んほ♡」

「でもボクが渡した
『性犯罪者育成デバイス』の
おかげで…」

「しゅきしゅき！
やめろ
性犯罪者め！！」

「はっ！抵抗もできず…
本当は痴漢行為で
感じまくっております！
…んあ♡」

「しゅきしゅき…署長
なせコト…」

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

「それでボクのザーメン
流し込まれて…うっ！♥」

「は…はっ♡署長の

『癖共有』能力で

スケベコス好きの

オタ女に生まれ

かわりきりだあ！

んあっ♡

ありがとう

ございますっ♡」

グ
ウ
ウ
レ

「でもボクのチンポ好きに
なったのは
能力のせいじゃないよね？」
「その通りです！実はセイナ
エッチなことに興味津々で…
おっ♡…デバイスあったとはいえ
署長のデカチン痴漢レイプで
イキまくっちゃう根っからの
ムッツリドスケベだからで
あります！」

んほ♡

すっ
てい

「ヌフフ…ぐっ！

JKコス思い出したら

コーファンしてきた！

家で帰ったら

あのコスでしょうか♡」

「お願いひまふっ！！♡」

ハ
ッ
ッ
ッ







署 長 室









